



札幌市博物館活動センターの紹介

古沢 仁

札幌市には1986年から自然史博物館の計画があります。その博物館設置をめざし、まず札幌の自然の解明を目的とした「博物館活動センター」を市民とともに、2001年に旧市立札幌病院（北1西9）の建物を利用して開設されました。そこには学芸員2名（古生物学・植物分類学）のスタッフで構成されています。2016年には、豊平区平岸に移転し、博物館活動を継続しています（図1）。館内には札幌の自然の生い立ちを概説する映像や資料が展示されており、さまざまな館内ワークショップや地域をフィールドにした「ぶらりネイチャー」や「川巡り」などの野外事業などを開催し、広く市民の人気を集めています。



図1 札幌市博物館活動センター外観

さまざまな活動を通じて資料の収集保存が進められ、開設当時は0だった資料も、市民のみなさんや本会員各位のご協力を得て、現在では10万点を超える資料が登録されています。

古生物の分野では、センターが開設された翌年の2002年には札幌周辺の海でサッポロカイギュウが、2008年にはセミクジラ科の化石（図2）が発見されました。サッポロカイギュウはおよそ820万年前に生息した大型のカイギュウ類で、札幌周辺の海で体長およそ7mに大型化し、北太平洋に拡散していったことを明らかにしました。



図2 現在研究中のセミクジラ科化石(レプリカ)
2023年2月にチ・カ・ホで展示した時の様子

一方、セミクジラ科化石は、およそ900万年前の後期中新世の地層から産出しました。それ以前に発見されたセミクジラ化石はいずれも推定される体長が6mを越えるものがなく、札幌のセミクジラ類が推定14mに達することを考えると、セミクジラ科の大形化も当時の札幌周辺の海で起こり、世界的に拡散した可能性があります。このように興味深い発見が札幌周辺の古生物研究から明らかにされつつあります。

現在、札幌市の自然史博物館は中島公園を建設候補地としていますが、いつ、どのくらいの規模の館が建つかは白紙の状態です。完成した暁には、本会員各位の活動の場としても利用していただけることを期待しています。その一日も早い実現のためにみなさんのご協力をお願いします。

（一般会員、札幌市博物館活動センター学芸員）

連絡先

〒062-0935 北海道札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6
TEL : 011-374-5002
FAX : 011-374-5014
E-mail : museum@city.sapporo.jp
HP : <https://www.city.sapporo.jp/museum/>

斜里町立知床博物館「石磨き宝石講座」の紹介

合地信生

私が所属する知床博物館には、岩石薄片の研磨機や岩石切断機はどうか揃っています。最近、それらを用いて、知床に産するメノウ石磨きの町民向け講座を始めました。

研磨機の周りに一度に3名が頑張ります。180番の研磨材で平坦面を作り、600番で磨きをかけます。この段階ではまだ光沢が出ませんので小型の研磨機にフェルトをのせ、酸化クロムで私が磨きます。約1時間で完成です。小学1年生から参加可能で「危ないと思ったら石から手を放せ」と教えるだけですが、慣れてくると生き生きとしてきます。石を磨く作業は減多にできない体験で、人気があります。

そこで参加人数を増やし、扱う石の種類を増やし、さらにもう少し「宝石」のイメージにならないかと考え、簡易研磨機を作りました（図1）。これは地元の鉄工所で、包丁磨き機に鉄板を固定して作ったものです。回転のスピード調整には電気式タイマーを使います。これも地元



図1: 包丁磨き機改造の研磨機(右)と電気の入り切りタイマー(左)

の電気屋さんにも作ってもらいました。きれいに磨けるのは均一な硬い岩石です。黒曜石、ジャスパー、私の研究用？のヒスイがまずターゲットになりました。その研磨のゴールには、七宝焼きのネクタイピンやキーホルダーに石を成型してオリジナルな宝石グッズが待っています。ここでは平坦な研磨盤で素人が磨きますので、平面だけで構成される型に限ります。図2のように正方形や長方形が得意です。包丁磨き改造の簡易研磨機は運搬可能で、いろいろな地域に出かけて石磨きの楽しさを紹介できるようになりました。

博物館での地質関係の体験講座は化石のクリーニングやレプリカ作りが良く知られていますが、身近な機械を改造しての石磨き宝石講座も大いに親しんでほしいと願っています。

(正会員、斜里町立知床博物館学芸員 合地信生)

連絡先

〒009-4113 北海道斜里郡斜里町本町49-2

TEL : 0152-23-1256

FAX : 0152-23-1257

E-mail : shiretoko-m@sea.plala.or.jp

HP : <https://shiretoko-museum.jpn.org>



図2 ヒスイとジャスパーのネクタイピン(右)と黒曜石のキーホルダー(左)

本通信は以下のURLにも掲載されています
<https://www.hrcg.jp/archive.html>

新年度のご挨拶

宮下純夫 理事長

5月13日に開催された本センター通常総会は、一般会員も含めて15名が参加し、終了後には全員が参加して懇親会も開催され、大いに歓談する場となりました。この1年間で10名も会員が増加し、40名を超える組織となり、メールマガジン購読者も着実に増えています。さて、コロナ感染症も5類への移行に伴い社会的活動が復活しつつあります。第11回公開講座(手稲山の形成史)は北海道新聞への掲載効果もあって会場が満席となりました。この様子はホームページに掲載されています。ところで本センターのホームページは担当理事の奮闘により大きく改善されており、スマホでのアクセスも可能となっています。7月29日には研究セミナー・会員交流会が予定されており、懇親会も開催します。多くの会員の参加を期待しています。

これからの活動計画

7月29日(土) 研究セミナー・研究交流会 (かでる2・7)

9月30日(土) 第12回公開講座『札幌を見下ろす山々(宮坂省吾)』
(かでる2・7)

12月2日(土) 第13回公開講座『地球環境問題と地質学(宮下純夫)』
(かでる2・7)

「総合地質」の投稿募集

総合地質第7巻の投稿募集は、締め切りを7月末まで延長しました。論説、報告・資料、論文紹介、自由投稿、書評など多彩な内容が投稿可能ですので、ふるって投稿されるようお願いします。

(総合地質編集委員長 宮下純夫)

新理事の紹介



この度、理事になりました岩間唯史です。小樽の小学校の理科教員をしています。私は、今まで小中学校で理科の指導をする中で、できるだけ子どもたちに実物に触れさせることと、地域の自然を生かした授業作りすることを心がけてきました。

化石の学習で、実物のアンモナイトなどの化石に触らせると、目を輝かせる子どもがたくさんいました。また、勤務した渡島管内の小中学校では、函館空港近くの岩脈、館層のケイソウ化石、瀬棚層の貝化石、函館市内の地震の揺れが場所により違うことなどを授業の中に取り入れてきました。これらの素材を学習活動に取り入れることで、教科書の写真だけの授業より少しはましな授業ができたのではないかと思います。

私も再来年の3月には再任用が終了します。限られた期間ですが、長万部町の鳴り砂を環境の学習に取り入れたり、小樽の自然の教材化に取り組んだりしてるところです。

【2023年度会費納入のお願い】2023年度会費未納の会員は、納入をお願い致します。年会費は正会員:6,000円・一般会員:2,000円・学生会員:1,000円です。振込(ゆうちょ銀行)もしくは直接手渡し(会合時)でお願い致します。なお、振込方法の詳細は、office@hrcg.jpまでお問い合わせください。(会計担当理事 石崎俊一)

編集後記

今回の通信は、とくに博物館所属会員の皆様の声を反映し、魅力的なものとなるよう努めました。編集集中、投稿者の古沢さんの同じ内容の講演が毎日新聞(6月29日朝刊)に掲載されました。通信へのご要望や新しいニュースがございましたら、お気軽にお知らせください。(高波)